

ふかまちのまど

発行元 深町町内会連合会
連絡所 六三三三八二

町内会連合会活動報告

町内会連合会会長 梶谷和伸

不法投棄 クリーン作戦実施



三月十六日(日曜日)午前九時三十分から約二時間、深町から中之町太郎谷へ通じる旧県道(現在は市道)の両側に投棄されている、ゴミ、空き缶、自動車タイヤ、寝具類、ガスコンロ、電子レンジ、等々の収集・清掃のクリーン作戦を行いました。ごみの収集量は、市のごみ収集車(ニトダンプ)二台と軽トラック一台が満杯でした。このクリーン作戦には深町から約五十名、中之町及び市公衆衛生推進協議会から約百名の方々が参加しました。ご多用中にもかかわらずご加頂きました皆様には、雨の中、ご協力くださいました。誠にありがとうございます。今後は、クリーン作戦の必要がないような、きれいな道であり続けて欲しいものです。▲▲

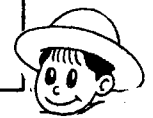
深小だより



深小学校長 飯本幸子

三月二十日、明るい気持ちのよい日差しの中、十三名の六年生が深小学校を卒業していきました。全員が四月から中之町の第二中学校新校舎で学びます。この六年生も「深町太鼓おどり」を壮年会の方に教えていただいたり、深町の歴史や産業について学んだり、多くの方にお世話になりました。ありがとうございます。四月八日には、新しい一年生五名が入学します。また、十一日には幼稚園に二名の園児が入園します。幼小合わせて七四名の子どもたちとなります。深町の子どもたちを今年度もよろしくお願いたします。▲▲

子ども会だより



子ども会 小林正美

町内の皆様には、平素より子ども会活動にご理解とご協力を頂き、大変ありがとうございます。平成十四年度も各行事を無事終えることができました。今後とも、子ども達の健全な成長の手助け、子ども達に思いつく活動の手助け、協力をお願いいたします。さて、昨年度に引き続き、未使用の「ゴミ処理券」を子ども会に提供していただきたく、お願ひ申し上げます。四月に入りましたら、各家庭を回らせて頂きたいと思っております。平成十四年度の「ゴミ処理券」が余っておられるご家庭は、それまでぜひ保管しておいて下さいますようお願い致します。▲▲

見事な演奏



如水館中・高等学校吹奏楽部の第六回定期演奏会は、三月三日、文化会館で行われた。数々の難曲を鮮やかに演奏され、平素の練習量と協調するとの大切さを強く感じた。迫力ある演奏を堪能し、足はやい春をもちた。感謝。尚、深小出身の高二の高田さん、成末さんも頑張っていた。▲▲

深小学校「卒業おめでとう」です

- 岡崎 汐里 さん
- 小川 翔平 さん
- 奥本 博美 さん
- 河原 千尋 さん
- 小林 磨紀 さん
- 新谷 将広 さん
- 天木 美奈見 さん
- 直井 未萌 さん
- 藤本 綾美 さん
- 古川 愛 さん
- 村上 諒輔 さん
- 山川 優香 さん
- 力武 志穂 さん

私の地球サミット(2)

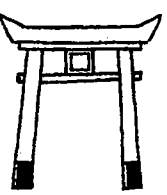
中組 安藤 志保



《思い通りにならない》

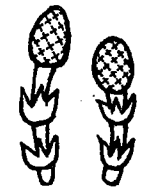
サミットに訪れたのは、世界百九十カ国の首脳、NGOなど五万人。それだけの人数を受け容れる施設、システムも整っていない、南アフリカ政府も試行錯誤の連続だったようです。昨日決まったことが今朝には変わり、今朝決まったことが昼には変わり、ヨハネスブルグに着いた日は、すぐにホテルに向かうはずが、予定変更。会場に直行してすぐイベントのための行動開始となったり、何時間も並んで(先着準で人数が限定されていた)もらった入場パスが、変更によりそれは無効となったり。それでもどんなことにも「Probleem」(大丈夫、大丈夫)と明るいアフリカの人。日本の生活では、時間に追われ、ルールに縛られることが多いですが、それとは全く逆の感覚です。一旦それを受け容れると、相次ぐ変更にも腹が立たなくなり、臨機応変に動けるようになり、思い切りやれること、これが大切なんだなあと感じました。▲▲

千川神社よりお知らせ



千川神社総代 西本一二三

深町町民の皆様には、平素から千川神社の維持運営につきまうございます。このたび中組の船本輝明様が千川神社へ彫刻した額を奉納してくださいました。字体は中国字で長楽と彫ってあります。額は神楽殿に奉納してありますので、神社の方に足をお運び頂いた時は、拝観していただくようお願い致します。▲▲



深町各種団体四月行事予定

- ◆上組町内会総会 十三日
- ◆中組町内会総会 六日
- ◆下組町内会総会 十三日
- ◆小学校・幼稚園 就任式・始業式 七日
- ◆入学式 八日
- ◆離任式 九日
- ◆入園式 十一日
- ◆貯金日 十一日
- ◆学力テスト 十五日
- ◆PTA総会 十八日
- ◆家庭訪問 十八日
- ◆仲良し遠足 二十三日
- ◆女性会 二二～二三日
- ◆親睦会 三十日
- ◆如水館 入学式 八日
- ◆中学校・高等学校 八日
- ◆県議会議員選挙 二十三日
- ◆市議会議員選挙 二十七日

展望席

日本の女子体操界の第一人者で、鷲浦町出身の日本体育大学教授池田(旧姓田中)敬子さんが、三原初の名著市民に選ばれました。戦後間もない頃、池田さんの体操界における大活躍で三原市民は大きな感動と活力をあたえてもったと思います。その池田さんが中国新聞で、「スポーツによって自分の健康を守り、増進させていこうとするのは喜ばしいことである。しかし、肉体的にも精神的にもそう快であるはずのスポーツが、逆に人の恨みを買ったり、自分の体調を無視してまでするスポーツは、後で必ず後遺症がでる。ジョギング中の突然死やゲートボール中のいきかいなどはその典型。」と述べています。昨年秋、急逝された高円宮さまも過激な運動がその原因とも言われました。間違っても、「健康のためなら命もいらぬ」ということにならないように注意しなければ！そして池田さんは「スポーツは正しい目的と楽しみ方のルールさえ知ってれば、人生にプラスになることさえあれ、マイナスには決して作用しない。流した汗はうそをつかない。」と結んでいます。「中年老いやすくガクガクになりやすし？」とか。そうならないためにも、池田さんの言葉を心にためて、あせらず、無理をせず、スポーツのひとつでも楽しみながら、健康で明るく生きていきたいものです。

深小時代の思い出(4)

元深小学校長 坂井吉徳
「桃源郷の夢」の巻

昭和三十一年(一九五六)四月、バスに乗って峠を登りつめると、眼前が急に「パー」と開け、ピンクや白い花が、左の山にも右の山にも谷にもと、あたりが花一面の美しい景色が広がりました。

今でも、あの時の風景が頭の奥にパッチリと残っています。そして、あんな所を「桃源郷」というのだからと思っています。もし、あの時カメラを持っていたら、きっと撮りまくっていたと思います。残念ながら安月給の私は持っていませんでした。

平成二年、再び峠の坂を自家用車に乗って赴任するとは、夢のような思いでした。そして、以前程ではありませんでした。右の山にも左の山にも、美しいピンクと白い花が私を迎えてくれました。

当時は、県道を拡張するといふ話がありましたが、如水館高校が移転して来るなどの話はありませんでした。

通知表今昔(3)

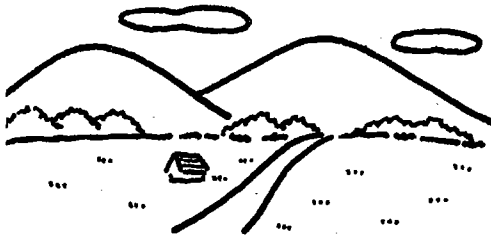
高崎 壽郎

身長・体重について

朝登校中の児童をみると、ずい分肥満の子が目につく。戦中は、食糧不足からくる慢性的な栄養失調からか、みんなやせていた。それがよくわかる

当時一番の話題は、ゴルフ場を造るといふ話でした。しかし、その話はなかなか進展しませんでした。

私は、「この美しい桃源郷に大を誘致したら良い」と考えていました。それは夢ではなく、三原市に福祉大学を新設しようという話があったからです。



私は、「大池から上り坂に六階建の校舎、研究室、食堂、体育館、グラウンドなどを配置したら、夕映えの学校が大池に映り、素晴らしい教育環境が生まれる。深の人々の就職も増えるし、人口も増えるし、すべて良い」と考えていたのです。

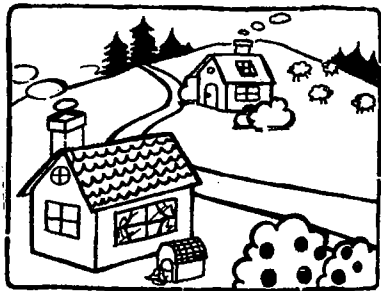
のが、月一回の体重測定だった。裸の胸をみると、肋骨(あばら骨)がよくみえた。そして、「誰が洗濯板とよく似ているかな」といいあった。

私が六年生の時、身長一三五・四センチメートル、体重二九・四キログラムで、これでも組平均より少し上の方だった。



当時、この問題を取り上げていた〇〇タイムスの社長に、私は直接会ってP・Rをお願いしました。私の思いは、はかなくも夢と消えてしまいました。

だが、学校ではなく、今は老人福祉施設「サンライズ大池」として、美しい景観を添えてくれていますね。



私はまた、「こんな便利な土地はない。深町はきつと発展する。今、宅地を買って下さい」と言っても、現実に道路が整備されないと、当時の町の人は買ってくれませんでした。

今では「校長さんの話をあの時信じていたら、大きな家が建てられたのに」と、教え子の一人が言っていました。

いつか、わが故郷を大切にしながら町の将来を考えないと、町の発展はないことを私は痛感しました。

表で比べてみると、現在の四年生と同じくらいだったことがわかる。およそ二年も発育が遅れている。

昔は、みんな回虫を養っていた。年一回全校で、海人草という海草を煎じた回虫駆除薬を飲んでいました。これが大変不味かった。

人糞を肥料にすることや、素足の生活が多かったため、回虫が体内に入り易かったらしい。今は、一、二三年生が蟻虫検査をする。

眼を閉じると、回虫に養分をすわれ、顔色の悪いやせて背の低い戦中の子ども(自分)が今もイメージできる。

今は、給食を残す子もいると、きくが、昔は好き嫌いをするとはいなかった。

野山のものでも、食べられるものや、薬になるものをよく知っていた。学校帰りは食べ物をさがしさがし帰っていた。

食事も、腹を空かしていた。皿をねぶるようにして食べた。

杯ご飯を食べてみたいと思っ。暮らしたことを覚えている。尚、身長・体重の表は、深小保健室の協力で作成した。

▲感謝

随筆 つらい花粉症

中之町 河野 強



「二月は逃げる」と言うが、早三月になり、六日は暦のうえでは啓蟄。お天気の良い日差しは、ほほを撫でる風も柔らかくなってきた。

春が少し近づくと季節、遅咲きの花梅もほころび、馥郁(フクイク)※よいにおいのするようす。たる香りがあたり一面にただよい始めた。

今年はどうしたのか、今頃きゆうに目のふちがチカチカ痒く、鼻もムズムズし詰まるようだ。ラジオも「今年は何年にもなくスギやヒノキの花粉が多いもよう」と放送していたが、「もう花粉が飛び出したのかな?」と不審になり、毎年花粉症で悩むS商店のお姉さんの店へ行った。

見ると、まあなんと、顔をクシヤクシヤにして目を赤く腫らし、涙を出し、さかんにクシヤミをしながら店番をしておられる。ああ、!! 可哀想に、今年も案の定花粉症にやられている。目に見えないスギやヒノキの花粉が、鼻と目には面白いぐらい敏感なようだ。他人ごとながら、つくづく面倒な体質になつてしまったものだ。可哀想に思う。とはいえ、花粉が本格的にとぶのは、まだまだこれからだのにと、同情する。

早く季節も過ぎ、桜の花の咲く頃になれば、幾分は柔らかい楽になる時季もくるだろう。その頃になれば、ひるむことなく、お日様の下で堂々と春を満喫して欲しい、と今の泣き顔を見ながら思う。

常々、何とかならないものかと思いつながら、今日テレビを観ていたら、なんとナツメの実の蜂蜜漬けが良く効くと放映していた。

また、漢方薬で外国産のシジユウムという植物の葉(マサキ)のような葉)をきざみ、煮立てて飲むと、二、三〇分で効果が出る。ただし、多量に飲むと下痢をするので、なるべく食後お茶がわりに飲むとよい。また、代用品にブワ茶というのがあるが効果が薄いそうだ。実験中に頑固な皮膚病も治ったと放映していたので、かなりの免疫力も有るらしい。

早速おしえてあげた。試してみるとよいだろう。なかなか効果は薄いかも知れないが、辛い時には誰でも、溺れる者ワラでも、よくなる事を祈りたい。少しあ、ほんとうに花粉症はつらく困ったものだ。

▲▲

年齢別身長・体重の平均値(男子) 検査毎年4月

| 年度 | 身長 (cm) | | | 体重 (kg) | | |
|---------|-------------|--------------------|--------------------|-------------|--------------------|--------------------|
| | 平成13年(2001) | 昭16~21 (1941~1946) | 昭16~21 (1941~1946) | 平成13年(2001) | 昭16~21 (1941~1946) | 昭16~21 (1941~1946) |
| 6才(14) | 116.7 | 115.7 | 114.0 | 21.7 | 21.2 | 19.3 |
| 7才(2年) | 122.4 | 122.0 | 118.6 | 24.3 | 24.1 | 21.0 |
| 8才(3年) | 128.2 | 127.8 | 124.5 | 27.6 | 26.9 | 23.0 |
| 9才(4年) | 133.5 | 132.8 | 127.5 | 31.1 | 30.8 | 25.0 |
| 10才(5年) | 138.9 | 138.1 | 132.5 | 35.0 | 34.4 | 28.1 |
| 11才(6年) | 145.3 | 143.9 | 135.4 | 39.5 | 38.7 | 29.4 |



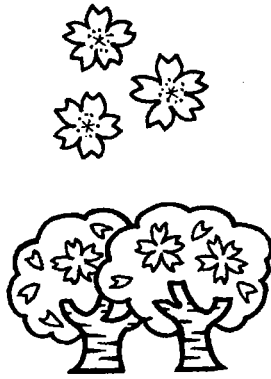
「初夢」

上組 石井 良雄



つもごりそばも食べたし、紅白歌合戦も終わり除夜の鐘も聞いたし、平成十四年よさようなら、私はベッドにもぐり込んだ。目が覚めたのは五時であった。私は覚えて夢を見たことに気が付いた。元日の夢だからまさに初夢であろう。今から十五年も昔のことを夢にみたのだ。その時私はまだ右の目は見えていた。ただ視野が狭いため自転車は危ないので歩くより仕方がない。四月下旬のある日、調べものをしなければと思い、玉川の百科事典を見せてもらいたくて小学校へ行くことにした。八時過ぎステッキを持って家を出た。石橋をわたって近道になる川沿いの小道を行く。やがて県道に出たその時、前方が急に明るくなったような気がした。

曲がり角まで来て私はあつと驚いた。息をのんだ。足は止まったまま動かなかった。城山の北斜面の裾野から八合目まで、これは見事な満開の桜である。私は茫然となった。一体誰が桜を植えたのだらう。地主の人たちが相談して植えたのだらうか。それとも上中下の町内会長さんや副会長さんが、地主さんの諒解を得てボランティアの力を借りて植えたのだらうか。私は何も聞いたことがなかった。桜と桜の間に楓を植え、アクトセントのために何本かの植（ハゼ）を植えておけば、秋になるとそれは見事な紅葉になり皆が感心するのではあるまいか。



それにしてもなんと見事な桜の花である。よく見ると、枝のない木もあるようだ。おそらく植えて間もなく野兔に噛み切られたのであろう。小さい苗木は支柱を三本しつかり結びつけておけばよい。支柱を立ててお

くと兎は畏だと思つて近よらないらしい。また台風が何度も来るから支柱をしておかなくてはならない。この城山の桜がこんなに見事なのは、平面でなくて立体的であるからだらう。平地の桜はどんなに見事でも、この桜には及びもつかないのである。それにしてもスプリングクラッシュのもの何処にも見当たらないのはどうしてなのか。桜の花が散つて若葉が出てくると、毛虫がよく付く。そのままにしておくと葉を食い尽くし、桜の木は裸同然になる。この大切な桜がむざむざ毛虫に食われるのは可哀想である。三歩進んで二歩下がる。こんなことをしては時をいたすに過ぎない。三原市内はもちろんだが、広島県いや中国地方でもナンパワンである。四国の奥道後には二千本の桜を植えたというが、一度見たものである。ふと時計を見ると、いつの間にかもう十一時ではないか。小学校に行くのは止めて帰ることにした。それにしても何とすばらしい初夢であったことよ。▲▲

「井戸の中のカエルの目」

中組 坪見 博文



私は井戸の中のカエル。小さな世界で生きている。外から見れば、バカな奴。井戸の中は台風でも平気。でも地震の時は生き埋めになる。他人にはわからない幸せの中に居る。



今、卒業、進学、就職、入学、と変化の季節。私は勉強が嫌いで六十三年生きてきた。今の仕事は私の頭脳に合っている。無理がないから幸せを感じる。無配管材を扱う商社と移り三十七才の時自分の好きな生き方を選び今に至っている。一人で二十数年自宅で気ままに働いて途中四十九才で離婚、息子二人も独立、六十才を前にやつと目的に着手、今夢が少しづつ実ってきた。中学卒業の時担任の先生に、君は「オクテ」だからゆっくりにやれと言われたがその通りになった。「ワセ」の人も「オクテ」の人も、自分が好きな事が何か探して見つかったら、その為の勉強をするのが大切と思う。▲▲